

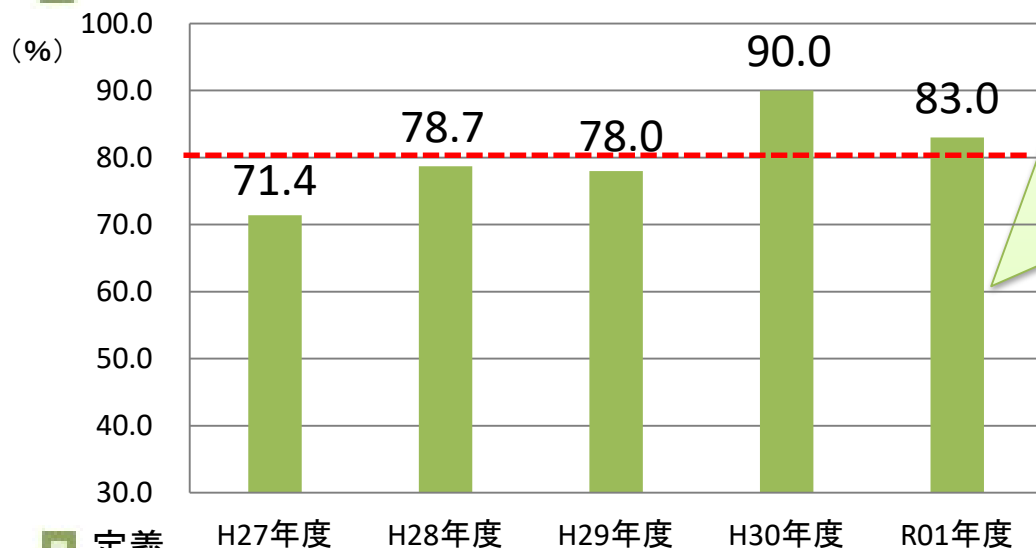
循環器内科：

急性心筋梗塞の患者で病院到着から再還流までの所要時間が90分以内の割合

■ 解説：process指標

急性心筋梗塞では予後を規定する因子のひとつとして早期再灌流が重要である。急性心筋梗塞発症から再灌流までの時間のうち医療者側で介入できる因子は、来院から再灌流までの時間、すなわちDoor to balloon time (D2B) であり、急性心筋梗塞に関するガイドライン(日本循環器学会)では、このD2B time を90分以内とすることが望ましいとしています。

■ 当院の実績



■ 定義

急性心筋梗塞を発症した患者が病院到着から再還流までの所要時間が90分以内の割合(目標値:80%以上)

■ 算式

分子: 患者の病院到着時刻から再灌流までの所要時間が90分以内の患者数

分母: 急性心筋梗塞で緊急カテーテル治療を行った患者数

■ 参照文献・学会ガイドライン等

ST上昇型急性心筋梗塞の診療に関するガイドライン(2013年改訂版)

《自己点検評価》

大学病院という特性上、重症症例が多いことなど目標達成率の改善は比較的困難と考えられる背景があります。

急性心筋梗塞の救急治療には、救急到着前の受け入れ準備に始まり、カテーテル検査治療の手技に至るまで、ありとあらゆる部署やシステムとそこに携わる職員の連携が不可欠となります。

従って、D2B time の短縮にはそれぞれの部署や職員とのさらなる連携強化が求められています。

また、急性心筋梗塞に対しては、24時間365日の対応であることから、夜間休日の体制に対する改善点はないかを検討しています。

このように、この指標は、病院の救急医療への取り組みの評価そのものであり、病院全体の課題として取り組んでいきます。

